

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 沖田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

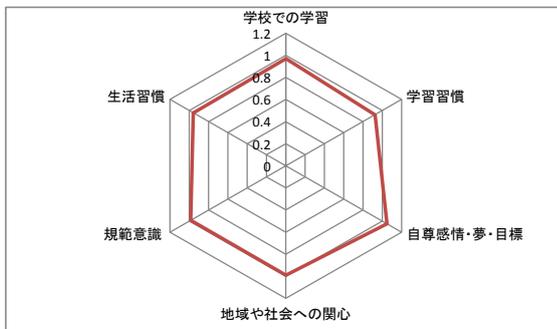
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率と同程度だったが、場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することができていた。 ・目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて文を書く練習をする必要がある。	全国平均正答率との比較 <b>同程度</b>
	よってきた問題	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題が全国平均よりも高く、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題の正答率も高かった。	
	努力が必要な問題	漢字を書く問題で、①紙をひもで <b>タバ</b> ねる ②舞台の <b>マク</b> が上がる の正答率が低く、無解答率も高かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を上回っており、特に話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問を書くことができていたが、目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 <b>上回っている</b>
	よってきた問題	複数の辞書を引用して「天地無用」の意味を示す効果として適切なものを選択する問題が全国平均よりも高かった。	
	努力が必要な問題	相手の的確に伝わるように、あらずじを捉えて書くという問題の正答率が低く、無解答率も高かった。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を上回っており、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の全4領域で全国平均正答率を上回った。 ・数量の大小関係を不等式に表す練習を反復する必要がある。	全国平均正答率との比較 <b>上回っている</b>
	よってきた問題	一次関数 $Y=aX+b$ について、 $a$ と $b$ の値とグラフの特徴を関連づけて理解し、グラフを選択する問題が全国平均よりも高く、比例や反比例のグラフを選択する問題正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	対頂角は等しいことの証明について、証明の必要性と意味を理解し、正しい記述を選ぶ問題の正答率が低かった。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っており、特に図形分野の平行四辺形の条件を変えた場合や、付加された条件の下で説明する問題の正答率が全国平均正答率よりも低かった。 ・今後は授業の中で、図形問題を筋道をたて、発展的に証明する力をつける必要がある。	全国平均正答率との比較 <b>下回っている</b>
	よってきた問題	はじめの数が10のときの計算結果を求める、問題場面における考察の対象を明確に捉える問題が全国平均よりも高かった。	
	努力が必要な問題	証明をふりかえり、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだす選択問題の正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を上回っており、特に「物理的領域」「化学的領域」の正答率が非常に高かった。疑問をもって科学的に探求する場面において、知識・技能を活用することができた。 ・地震の揺れの強さが震度であることの知識を身に付けていきたい。	全国平均正答率との比較 <b>上回っている</b>
	よってきた問題	電流計は回路に直列に接続するという技能および電流計の電気用図記号の知識を身に付けている問題が全国平均よりも高かった。	
	努力が必要な問題	植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する問題の正答率が低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>・「自分にはよいところがあると思う」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたい」などの回答が全国平均を上回った。家族や先生から見守られている意識が高く、生活習慣の確立や規範意識の醸成についても学校と家庭が連携して効果をあげている。</p> <p>・家庭での自主学習について、教科書を使用して学習している割合は全国平均を上回った。特に3時間以上勉強している生徒の割合は、全国平均の2倍以上である。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

全学級で「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を行うことはもちろん、学習形態が学習に及ぼす影響は、「講義を受ける」より「人に教える、説明する」ことであること意識を高め、全学級全教科において、学級や班の中で話し合い活動を取り入れる。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

朝食を毎日食べる割合や、就寝時間と起床時間の関係など、安定した高い水準を維持している。学習面においては、生活学習ノートの活用を計画的に取り組むことで、家庭学習の時間を確実に確保する。今後は学校通信や保護者懇談会を通して、地域行事にも関心をさらに高めて、地域や社会をよくするために何をすべきかを考える取組をしていく。